

地域における生計改善のためのセルフエンパワメント： コミュニティ・ベースのモニタリングと評価に向けた 新しい枠組み構築の研究

岡田 綾

キーワード： コミュニティ・ベースのモニタリングと評価、生計改善、
セルフエンパワメント、住民主導、地域の持続可能性

1. イントロダクション

近年、多くの国際協力プロジェクトが世界中で実施されているが、地域住民だけでプロジェクトの効果を維持していくことは難しく、時間と共に効果が薄れていく現状にある。また、開発分野において参加型評価などの重要性が高まっているが、参加の度合いや内容は多岐に渡り、一時的な住民参加に留まっているケースも多い。本研究では、ベトナムでのフィールドワークを中心に、プロジェクト終了後も地域住民による継続的な状況改善が可能となることを目的とした住民主導のコミュニティ・ベースのモニタリング・評価(以下、CBME)の枠組みの構築を試みる。

2. 地域住民によるプロジェクト・インパクトの維持の可能性

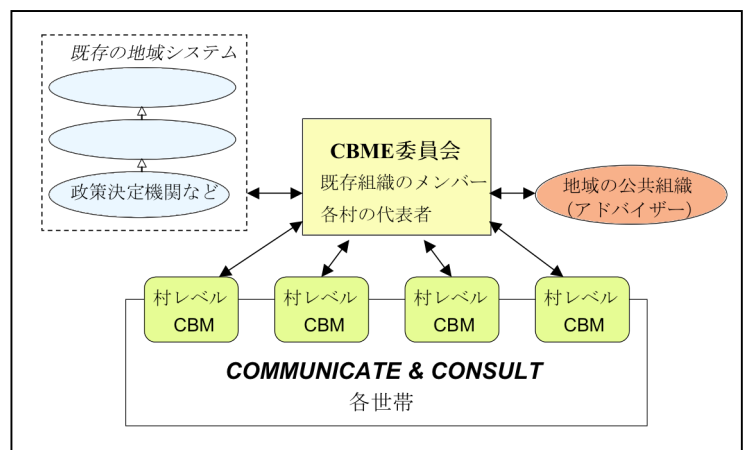
あるプロジェクトが終了した後の地域を対象とした2005年の調査によると、プロジェクト終了後、地域住民はプロジェクトを通して得た技術や知識をより深めるため、継続的なトレーニングプログラムの実施を希望しているものの、予算や人的資源の制約から、彼ら自身で活動することは非常に困難な現状にあることがわかった。

3. フィールドと調査手法

ベトナム中部のフエ省は台風などの自然災害常襲地域であり、毎年、農業や養豚といった生計にも大きな影響を受けている。2005年の調査フィールドと異なり、今後プロジェクトが実施される地域においてCRMEの枠組みを検討するため、一地域を対象に、現存する地域システムの把握と、それらに対する地域住民の意識・期待を明らかにすることを目的に、インタビュー、フォーカスグループディスカッション、アンケート調査を実施した。

4. ベトナムにおけるコミュニティ・ベースのモニタリング・評価の新しい枠組みの提案

現状において、収穫量の把握などのモニタリングは行われているものの、その活動内容とフィードバックは住民レベルまで浸透しておらず、現行の取り組みと住民意識には格差が見られた。各種プロジェクトは人民委員会が窓口となって実施されるが、プロジェクト後の活動の継続性を高めるため、恒常的に地域住民が生計の維持と問題解決を行い、持続性を獲得する取り組みを率先する組織として、コミュニティ・ベースのモニタリング・評価(CBME)委員会の設置を提案する。委員会の活動が住民によって認識・支持されるよう、住民に近くかつ信頼のおかれている人材を委員会メンバーとして起用することが望まれる。また既存のシステムや組織の活用を検討したうえで、地域内での委員会の位置付け、他機関との関係が熟考されなければならない(図-1)。



図—1 CBME委員会と各機関の関係